

平成26年度教育研究活動報告書

氏名	平山直樹	所属	芸術文化学部日本文学科
学位	博士（文学）（広島大学）	職位	准教授
専門分野	英語の歴史研究		
Ⅰ 教育活動			
本年度担当科目			
学部	TOEIC I TOEIC II 応用英語 I 応用英語 II 上級英語 I 上級英語 II		
大学院	英語学特論		
Ⅱ 研究活動			
これまでの主な研究業績（5件まで）			
(1) 〈論文〉「『パストン家書簡集』における <i>please</i> 」、谷明信・尾崎久男編『15世紀の英語—文法からテキストへ—』、2013年3月29日。			
(2) 〈論文〉「『パストン家書簡集』におけるME THINKS」、尾道市立大学日本文学論叢第8号、pp. (1)-(18)、2012年12月。			
(3) 〈論文〉「名詞節を導く <i>that</i> の省略について—『パストン家書簡集』におけるTHINK—『英語教育への新たな挑戦—英語教育内容学の視点から』、pp. 205-17、英宝社、2010年7月。			
(4) 〈論文〉“Epistemic Adverbs in the Paston Letters,” <i>English Philology and Stylistics: A Festschrift for Professor Toshiro Tanaka</i> , Edited by Osamu Imahayashi and Hiroji Fukumoto, pp. 59-71, 溪水社, 2004年12月。			
(5) 〈論文〉“The Language of Requests in the Paston Letters: The Grammaticalization and Subjectification of X PRAY Y,” 広島大学英文学会『英語英文学研究』第46巻, pp. 25-43, 2002年3月。			
本年度を含む過去3年間の研究業績			
(1) 〈書評論文〉“Juan M. Hernandez-Campoy and J. Camilo Conde-Silvestere, eds. <i>The Handbook of Historical Sociolinguistics</i> . Chichester: Willey-Blackwell, 2012. xxx+674 pp.,” 広島大学英文学会『英語英文学研究』第58巻, pp. 43-55, 2014年3月。			
(2) 〈論文〉「15世紀イギリスの手紙を読む—パストン家の手紙に着目して—」、尾道市立大学芸術文化学部日本文学科『尾道文学談話会会報』第4号, pp. (17)-(41)、2013年12月。			
(3) 〈学会発表〉「『パストン家書簡集』における <i>since</i> 」、日本英文学会中国四国支部第66回大会 於 山口大学、2013年10月19日。			
(4) 〈論文〉「『パストン家書簡集』における <i>please</i> 」、谷明信・尾崎久男編『15世紀の英語—文法からテキストへ—』、2013年3月29日。			
(5) 〈論文〉「『パストン家書簡集』におけるME THINKS」、尾道市立大学日本文学論叢第8号、pp. (1)-(18)、2012年12月。			
(6) 〈学会発表〉「『パストン家書簡集』における理由を表す接続詞」、日本中世英語英文学会第28回全国大会 於 広島大学、2012年12月2日。			
現在の研究テーマ（3つまで）			
(1) 『パストン家書簡集』における英語の歴史的研究			
研究テーマの進捗状況	15世紀の英語で書かれた手紙を集めた『パストン家書簡集』の言語特徴を歴史的に研究している。その一環として、現在は理由を表す副詞節に着目している。2012年に接続詞 <i>because</i> に導かれる理由節について研究発表を行い、2013年には接続詞 <i>since</i> に導かれる理由節についての研究発表を行った。現在は、理由を表す接続詞に関する研究を進める一方で、名詞節を導く接続詞 <i>that</i> にも注目している。		
学会、所属団体における活動（本年度を含む過去3年間の研究業績）			
所属学会・所属団体 役職等			
日本英文学会, 日本英文学会中国四国支部（編集補助委員）, 日本中世英語英文学会（大会準備委員）, 日本中世英語英文学会西支部（運営委員）, 近代英語協会, 英語史研究会, 英語コーパス学会, 山口大学英語教育研究会（運営委員, 編集委員）, 尾道市立大学日本文学会			